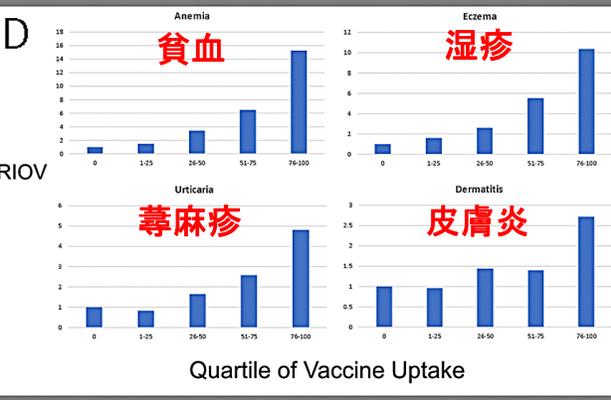
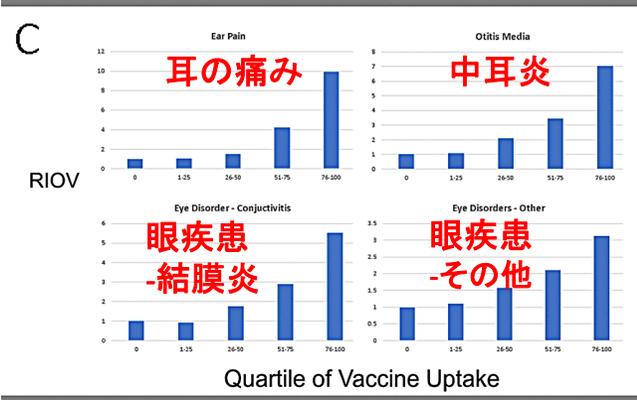
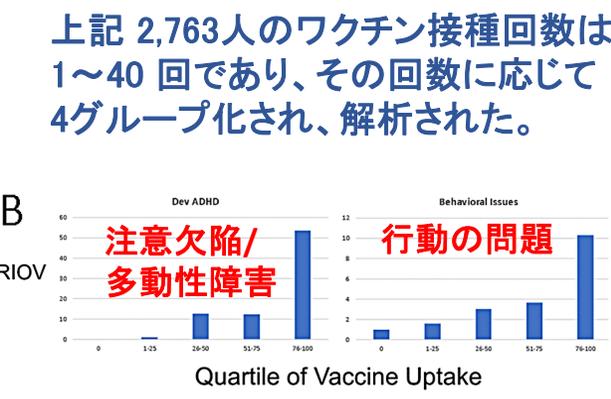
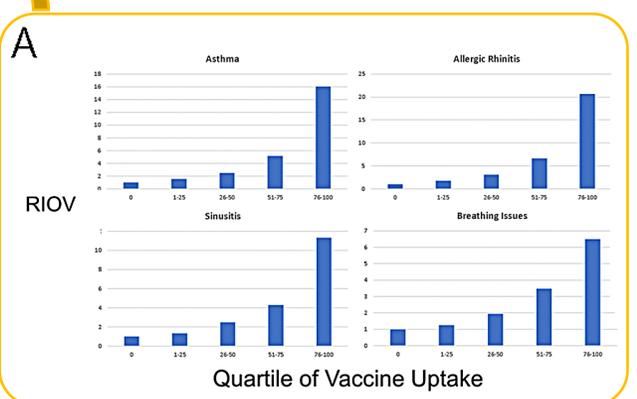
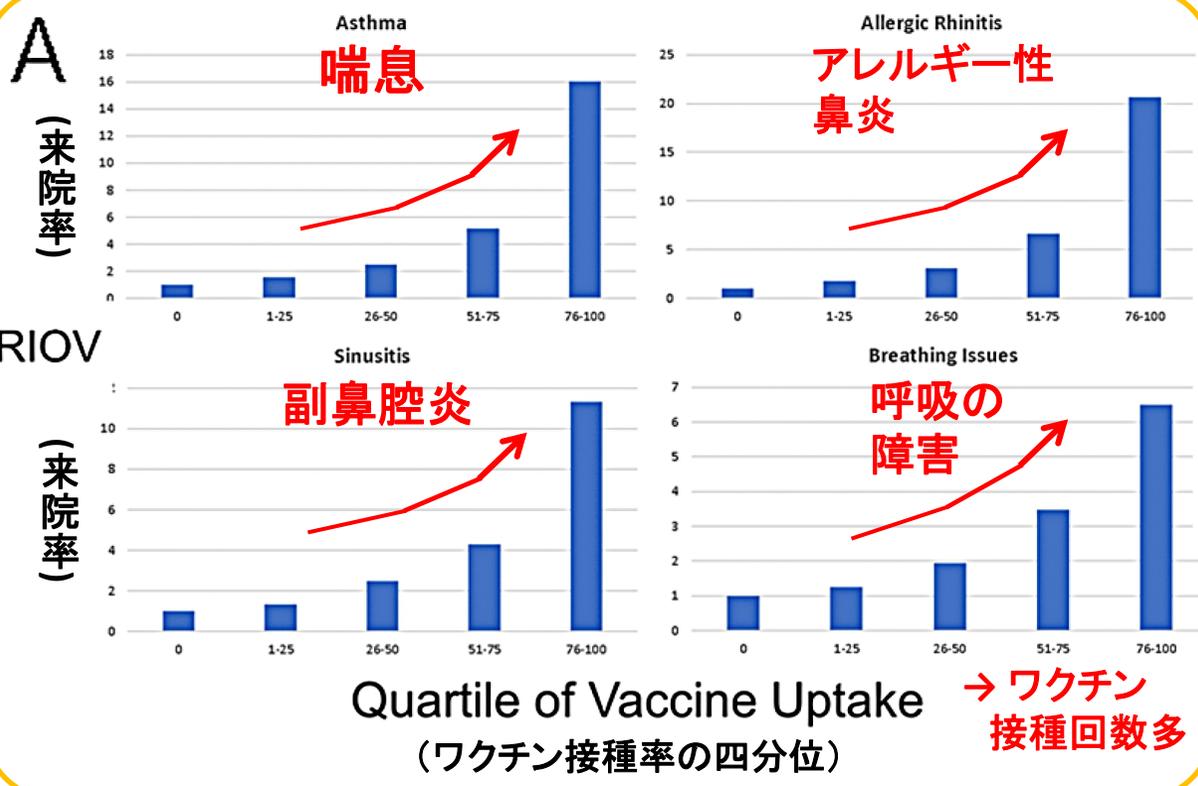


# ワクチンで、たとえ目的とする感染症を防げたとしても、他の疾患を増やしてしまうことになる

拡大

米国、2020年報告、ワクチンを1種類以上接種した子ども 2,763人と、全く接種していない子ども 561人が比較された。なお、ワクチン接種が行われた最小年齢は生後2か月、最大年齢は10歳6か月、平均年齢は4歳3か月であった。



(出典: Int. J. Environ. Res. Public Health 2020, 17(22), 8674; <https://doi.org/10.3390/ijerph17228674>)

この論文は、後に掲載誌側から撤回するよう要望され、実際に撤回されることになったが、著者らは、この撤回に同意しなかった。

ワクチン接種回数が多いグループほど、種々の不具合が原因で診療所に来院する率が高かった。ワクチンの種類によって原因は様々であるが、ワクチン中の特定成分が原因であるよりも、多種類のワクチン製剤が数年間にわたって多数打たれることによる相乗作用のほうが大きいと考えられる。

